

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 5月 15日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
根来 章子	ねごろ あきこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ 講師 ・助教	男・ 女

担当科目名

音楽表現ⅠB、言語表現

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成9(1997)年 3月	横浜国立大学 教育学部 中学校教員養成課程音楽専攻 卒業	学士(教育学)
平成11(1999)年 3月	お茶の水女子大学大学院 人文科学研究科 博士前期課程 人文学専攻 音楽表現論講座 修了	修士(人文科学)
平成24(2012)年 3月	お茶の水女子大学 人間文化研究科 博士後期課程 比較社会文化学専攻 単位取得退学	

教育歴・職歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
沖縄県立芸術大学 (専任助手)	平成15年4月 ～18年3月	和声初級・中級 担当
横浜保育福祉専門学校 (専任教員)	平成23年4月 ～26年3月	音楽表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、保育内容(表現)、保育実践演習、 小児体育、卒業研究 担当
横浜保育福祉専門学校 (非常勤講師)	平成26年4月 ～28年3月	音楽表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 担当
秋草学園短期大学 (非常勤講師)	平成27年4月 ～28年3月	保育指導方法 担当
鎌倉女子大学・鎌倉女子大学 短期大学部(非常勤講師)	平成26年4月 ～現在	音楽①、音楽②、保育内容演習表現、音楽科教育法 担 当
小田原短期大学	平成28年4月 ～現在	保育課通信教育課程 講師
豊岡短期大学 (非常勤講師)	平成30年4月 ～現在	こどもトリズム表現、こどもと音楽表現 担当

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
民族芸術学会	平成23年4月	
日本保育学会	平成26年9月	
全国大学音楽教育学会	平成28年2月	

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
神奈川県・(社)神奈川県専 修学校各種学校協会協働事 業「仕事のまなび場」幼児音 楽系講座担当	平成23年8月 ～平成25年8月	神奈川県内の高校生のキャリア教育の一環として実施さ れる県委託事業「仕事のまなび場」における保育士体験 講座の音楽系講座を担当した。

担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
中学校教諭専修免許(音楽)	平成11年3月	東京都
高等学校教諭専修免許(音楽)	平成11年3月	東京都
小学校教諭一種免許	平成9年3月	神奈川県

赤ちゃん学音楽アドバイザー		平成 29 年 12 月		日本赤ちゃん学会	
研究実績に関する事項					
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌 又は発表学会等の名称	概 要	
(著書) 1 教育・保育実習に役立つ部分実習指導案集	共著	平成 30 年 3 月	萌文書林	教育実習・保育実習での部分実習を想定した指導案例と解説を掲載した本書のうち、音楽表現に係る指導案及び解説を執筆した。童謡歌唱から、歌詞のイメージを膨らませたリズム楽器での表現や、身体表現への接続に着目し、発達段階に応じた展開を例示したうえで、その応用可能性も踏まえて解説した。宮川萬寿美(編著)、根来担当ページ pp. 15~18, pp. 29~34.	
(学術論文) 1 「近代フランス音楽における日本の表象——ジョルジュ・ミゴ《Hagoromo》を例として」	単著	平成 20 年 3 月	『お茶の水女子大学比較日本学 研究センター研究年報』第 4 号	ジョルジュ・ミゴ作曲のオペラ・バレエ《Hagoromo》にあらわれた日本の表象と、作曲家の狙いについて、可視的な舞台表現と、音楽表現の両面から検討を行った。作曲家が、同時代のキュビズムをはじめとした前衛芸術を意識し、それに対抗する自分ならではの表現を模索していた。そこで日本の題材が選ばれた理由について考察した。	
2 「近代フランス音楽にあらわれたアジアの表象——20 世紀前半音楽シーンにおける異国の伝統の取り扱いについて」	単著	平成 21 年 3 月	日本学術振興会 人文・社会科学 振興プロジェクト 振興事業平成 20 年度研究報告 『伝統から創造へ 3』	創作に異文化要素を持ち込む際、「奇異なるもの」という視線を脱し、その正統性を重視する態度はどのようにあらわれるのだろうか。ルーセルの《パドマーヴァティ》、ミゴの《Hagoromo》の成立背景に、台本作者ルイ・ラロワの創作態度を関連づけて、20 世紀前半のパリの音楽シーンにおいて、19 世紀的な表層的エグゼティスムから脱して「正統性」を求めようとする動きについて論じた。	
3 ルイ・ラロワにおけるアジア音楽の認識について——『中国音楽』(1910 年頃)を中心に	単著	平成 24 年 3 月	『民族藝術』第 28 号	音楽学者ルイ・ラロワの著書『中国音楽 La Musique chinoise』(1910 年頃)及びその下書きノートの分析を行い、ラロワがアジア音楽に対して持っていた知識と問題意識を明らかにした。分析の結果、ラロワの主要な関心が音律形成の起源にあったことがわかった。また、中国音楽の起源がギリシアにあるとする当時の通説への懐疑的姿勢がみられた。これは、典拠文献にはない、ラロワ独自の問題意識である。	
4 主体性と協同性の獲得に着目した幼児の合奏活動の検討	単著	平成 30 年 3 月	『小田原短期大学紀要』第 47 号	5 歳児クラスの合奏活動を観察し、練習過程における幼児の活動の様子から主体性と協同性の萌芽を抽出し、保育者の幼児への支援との関係性を検討した。保育者による他者尊重を促す言葉がけや、楽譜上の正しさよりも幼児個々人が自らの課題を克服していくことに価値を置き、十分な遊びの時間を確保する等により、幼児が周囲とのリズムの同期を自ら獲得し、教え合いや互いの表現を讃える姿が見られた。保育者の適切な関わりによって、幼児の主体性と協同性が相互関係をもって現れてくることを指摘した。	

<p><その他> (口頭発表)</p> <p>1 「近代フランス音楽にあらわれたアジアの表象——20世紀前半音楽シーンにおける異国の伝統の取り扱いについて」</p> <p>2 「ルイ・ラロワにおけるアジア音楽の認識について——『中国音楽』(1910年頃)を中心に」</p> <p>(ポスター発表)</p> <p>3 『『保育指導方法』と保育実践力～音楽活用スキル育成の視点から』</p> <p>(調査報告)</p> <p>4 「20世紀前半フランスにおけるアジア音楽の媒介システムについて——ルイ・ラロワに関する一次資料の閲覧及び収集」</p>	<p>単独</p> <p>単独</p> <p>共同</p> <p>単独</p>	<p>平成20年6月</p> <p>平成23年4月</p> <p>平成28年5月</p> <p>平成20年3月 平成19年10月採択 平成20年2月渡航</p>	<p>日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト研究領域V「伝統と越境」サブ研究グループ「芸術文化における『伝統的なもの』」第15回研究会（於聖徳大学）</p> <p>第27回民族芸術学会大会（於岡山市立オリエント美術館）</p> <p>第69回日本保育学会全国大会（於東京学芸大学）</p> <p>文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」平成19年度採択プログラム『日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成』（お茶の水女子大学大学院人間文化研究科）による海外調査研究報告書： 「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成19年度活動報告書 海</p>	<p>アジアの文化要素を西洋音楽作品に持ち込むときの、正統性獲得についての創作側の意識や態度について、ある種の転換期となるのは、具体的な情報の流入や、相互の人的交流が増加する、20世紀の前半であったといえる。この時期のパリの音楽シーンに焦点を当て、19世紀的な表層のエグゾティスムから脱して「正統性」を求めようとする動きについて、ルーセルの《パドマーヴァティ》、ミゴの《Hagoromo》、両者の台本作者であるルイ・ラロワの創作態度に触れつつ論じた。</p> <p>音楽学者ルイ・ラロワの著書『中国音楽 La Musique chinoise』（1910年頃）及びその下書きノートの分析を行い、ラロワがアジア音楽に対して持っていた知識と問題意識を明らかにした。分析の結果、ラロワの主要な関心が音律形成の起源にあったことがわかった。また、中国音楽の起源がギリシアにあるとする当時の通説への懐疑的姿勢がみられた。これは、典拠文献にはない、ラロワ独自の問題意識である。</p> <p>保育士養成校における音楽教育における、汎用的・領域横断的な学びが希薄になりがち傾向を克服することを目的として、保育系教員と音楽系教員が協力した授業実践の報告。影絵劇制作を通して、保育実践において音楽を活用する意識と技術の向上を図る指導を行った。</p> <p>音楽学者ルイ・ラロワと交流のあった作曲家達がアジアを題材とする作品を多数作曲したことに着眼し、異文化受容のプロセスを、ラロワが果たしていた「媒介者」としての役割に焦点を当てることで説明しようとするもの。本調査では、ラロワの遺族を訪ね、書簡、著作の草稿等を収集した。また、音楽批評家であったラロワが、当時の新聞等でアジア音楽をどう紹介したかを知るため、日刊紙『コメディア』等のラロワ執筆記事を収集した。これらは、パリでのアジア音楽受容に、ラロワがどう関わり、ラロワ自身がどのようにアジアと接していたかを実証する根拠資料となる。</p>
--	---	--	---	---

			外研修事業編, お茶の水女子大 学大学院人間文 化創成科学研究 科	
--	--	--	---	--